

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

太田		
笠柳		
かぶとやま2丁目		
村新田		

●位置図



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]太田小学校	2.6	3	○	—	2階以上	—

●施設・団体

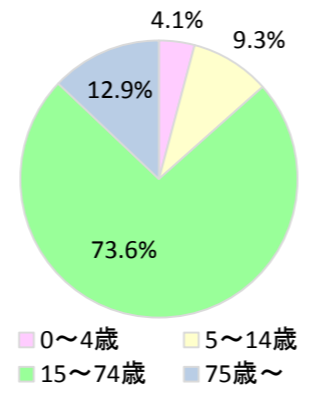
市役所・区役所等	—
警察・消防	—
消防団	北方面隊 葛塚分団・木崎分団
水防倉庫	—
一時避難場所	太田農村公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 高年齢者 福祉施設 障がい者 福祉施設
	太田保育園
	—
	—

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]木崎保育園	7.7	1	○	—	全階可	—
[ヒ]県立若草寮	2.3	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]すみれ保育園	1.6	1	○	—	×	—
[ヒ]葛塚中学校	2.0	4	○	—	2階以上	○

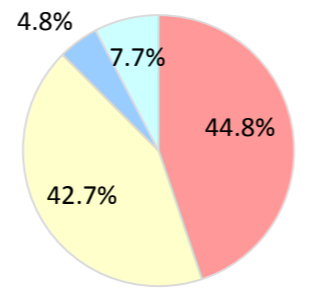
●人口

項目	数	地区の割合	市の割合
総人口	4,443人		
0～4歳	184人	4.1%	4.0%
5～14歳	413人	9.3%	8.5%
15～74歳	3,272人	73.6%	74.6%
75歳～	574人	12.9%	12.9%
65歳以上人口	1,118人	25.2%	26.0%
世帯数	1,440世帯		
一世帯あたり人口	3.1人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	832人/km ²		1,108人/km ²
昼間人口	3,115人	夜間の70.1%	



●建物関連指標

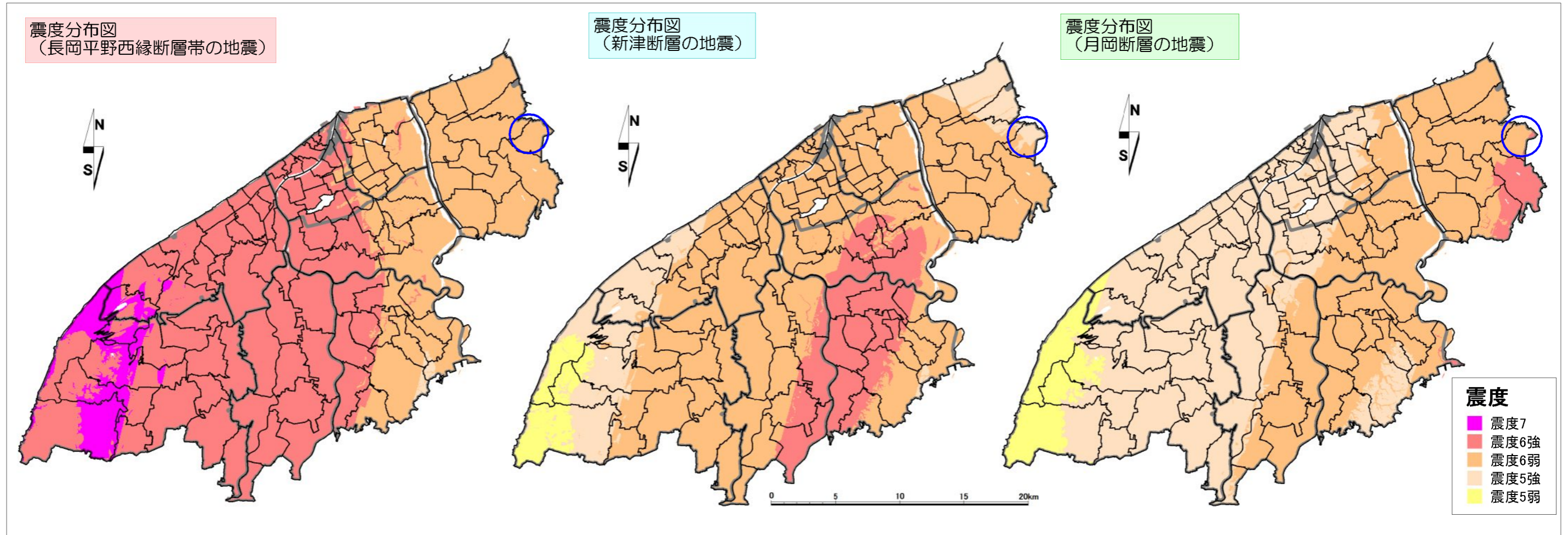
	総棟数	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,172棟	44.8%
	S56年以降建築	1,116棟	42.7%
	計	2,288棟	87.5%
非木造	S55年以前建築	126棟	4.8%
	S56年以降建築	201棟	7.7%
	計	327棟	12.5%
S56年以降建築物		1,317棟	50.4%



S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、地区北部や中央部には、海岸線と平行(北東-南西)に並ぶ微高地が分布しており、周辺に比べて液状化の可能性が低い。 津波は福島潟放水路から侵入し、地区南部、北部の低地で浸水が想定されている。
水害・土砂	阿賀野川の洪水、新井郷川・新発田川流域の洪水及び太田川の洪水によって、浸水の可能性はある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

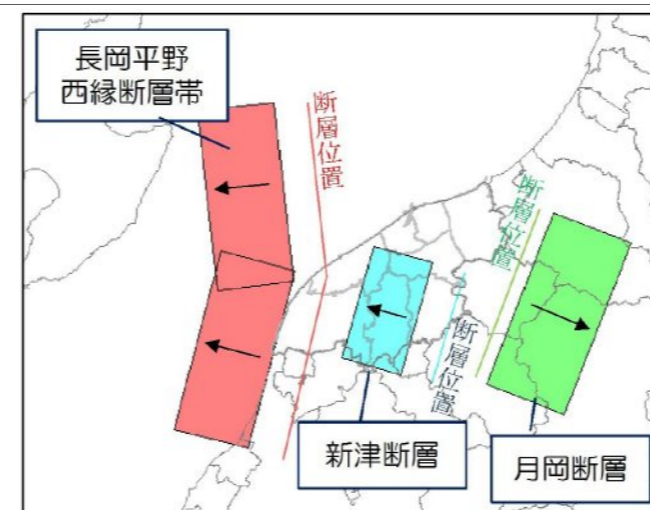
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

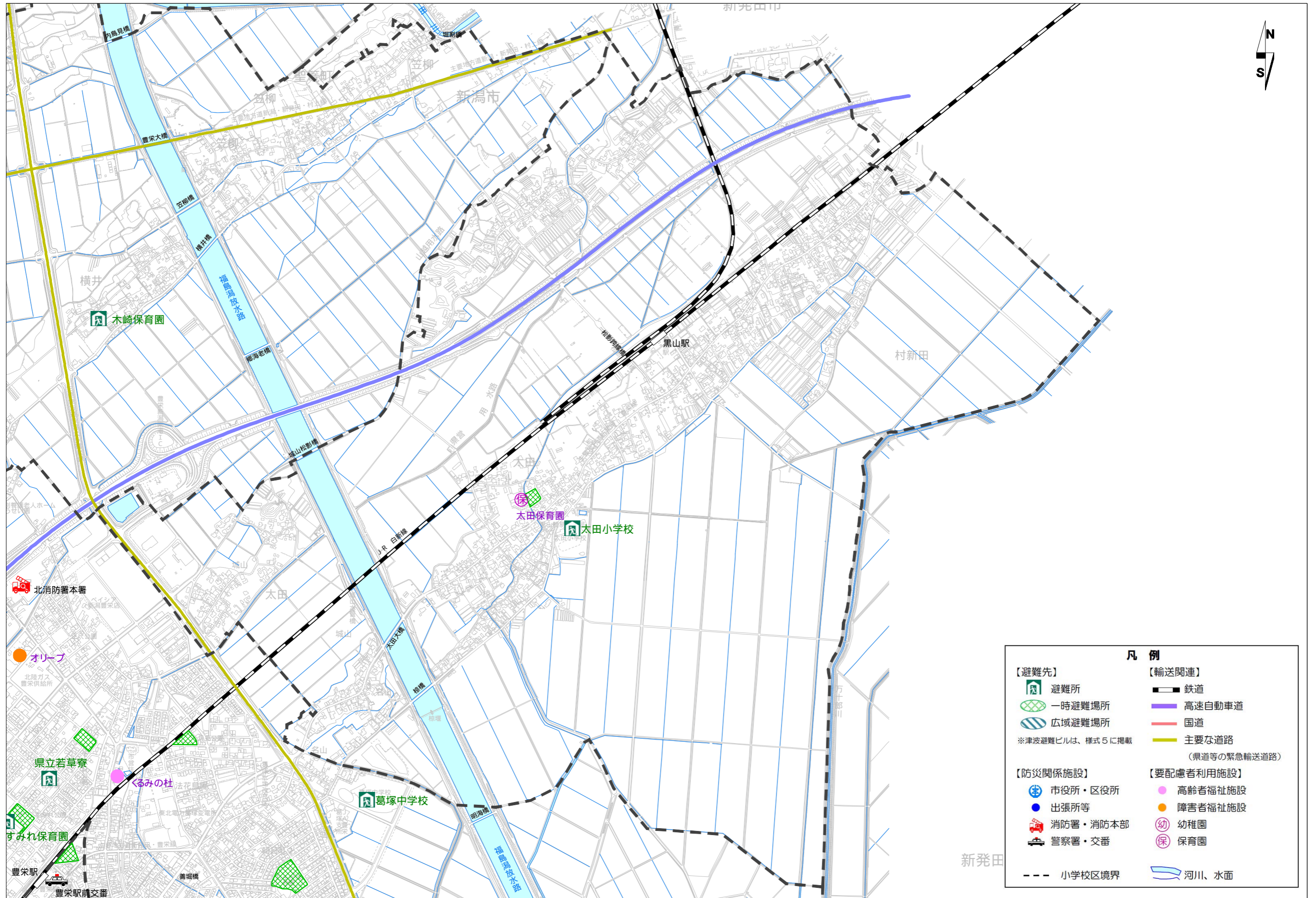
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

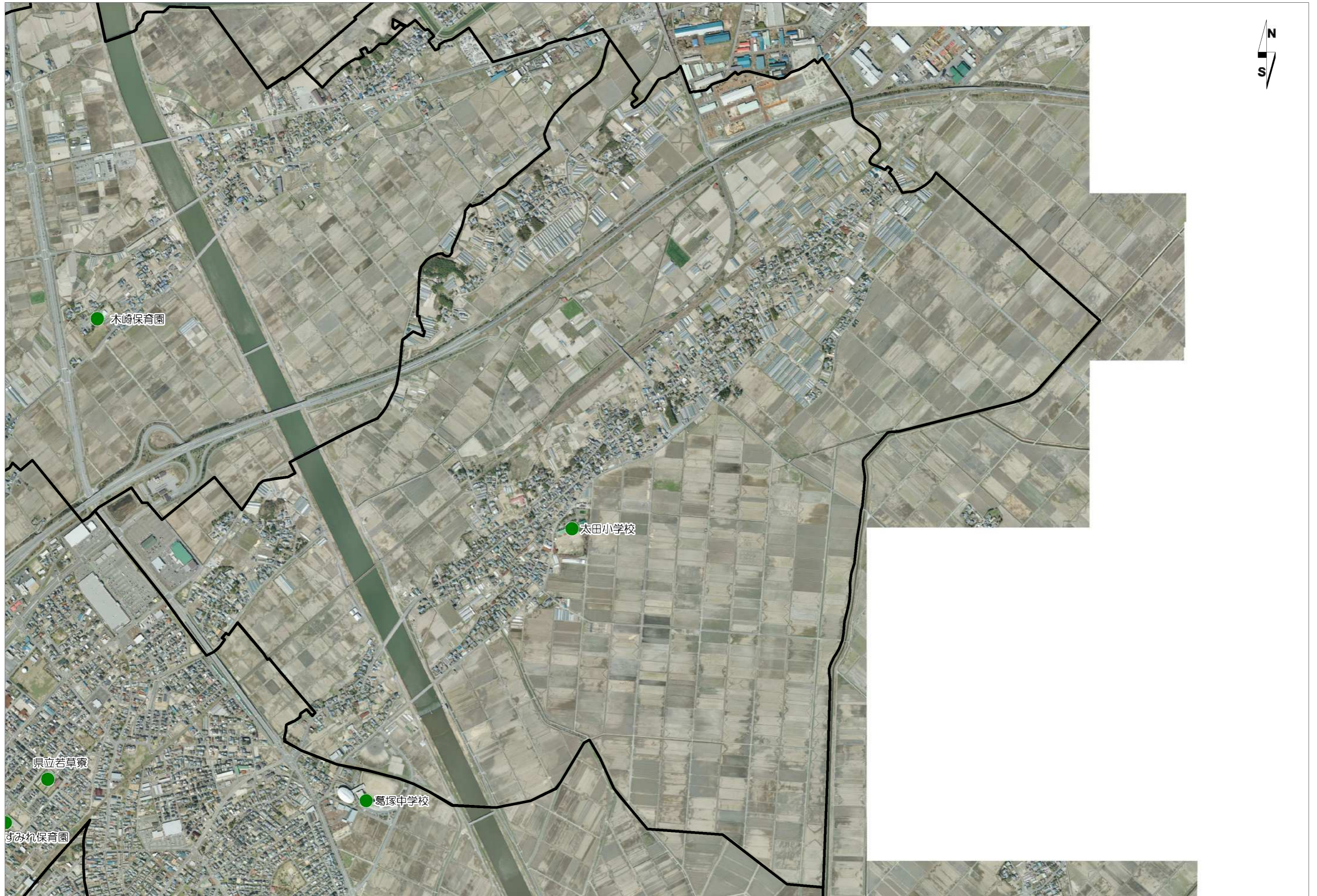


← は、断層の傾きを示しています。



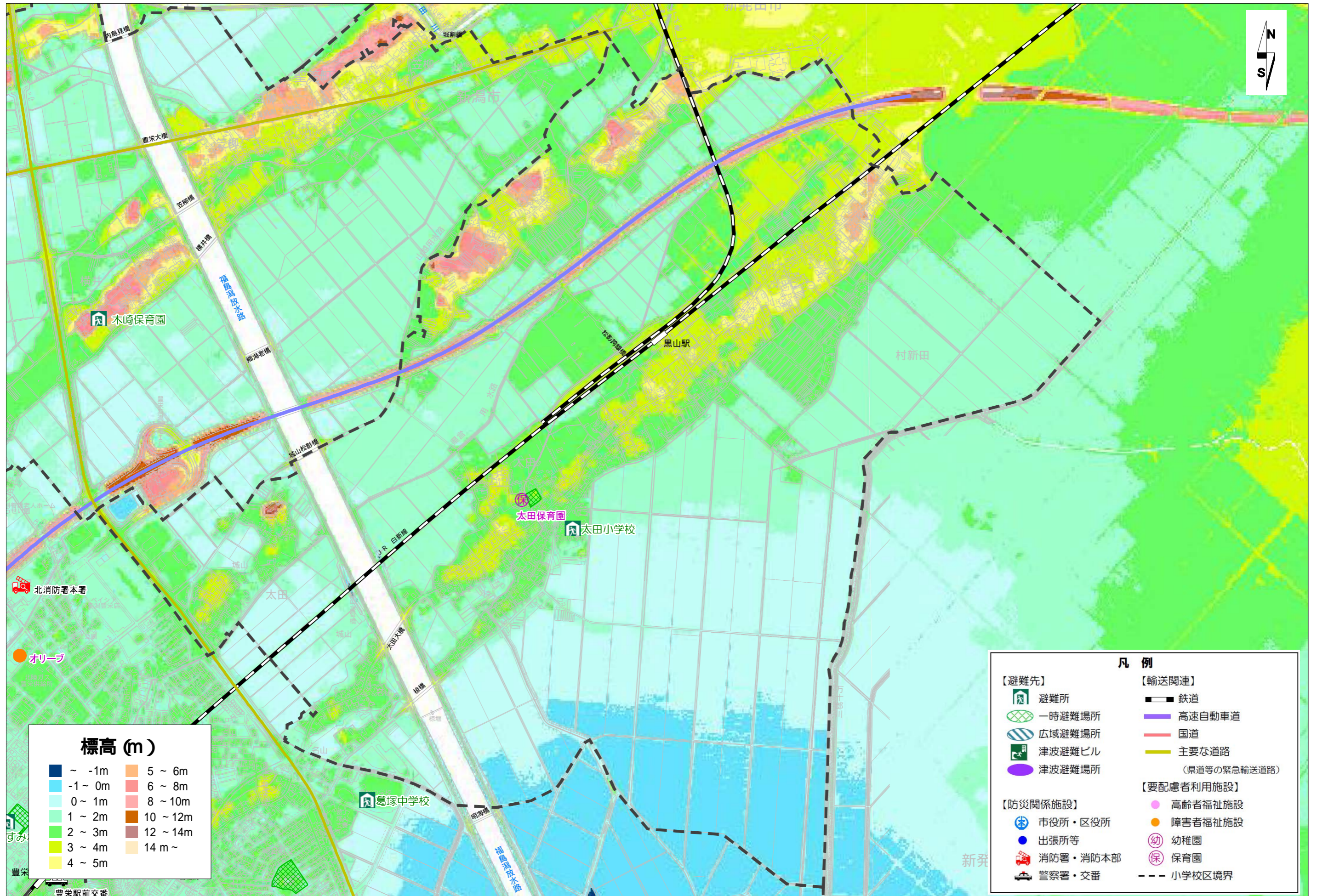
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





〔出典〕 航空写真(平成26年4月)





標高 (m)

~ -1m	5 ~ 6m
-1 ~ 0m	6 ~ 8m
0 ~ 1m	8 ~ 10m
1 ~ 2m	10 ~ 12m
2 ~ 3m	12 ~ 14m
3 ~ 4m	14 m ~
4 ~ 5m	

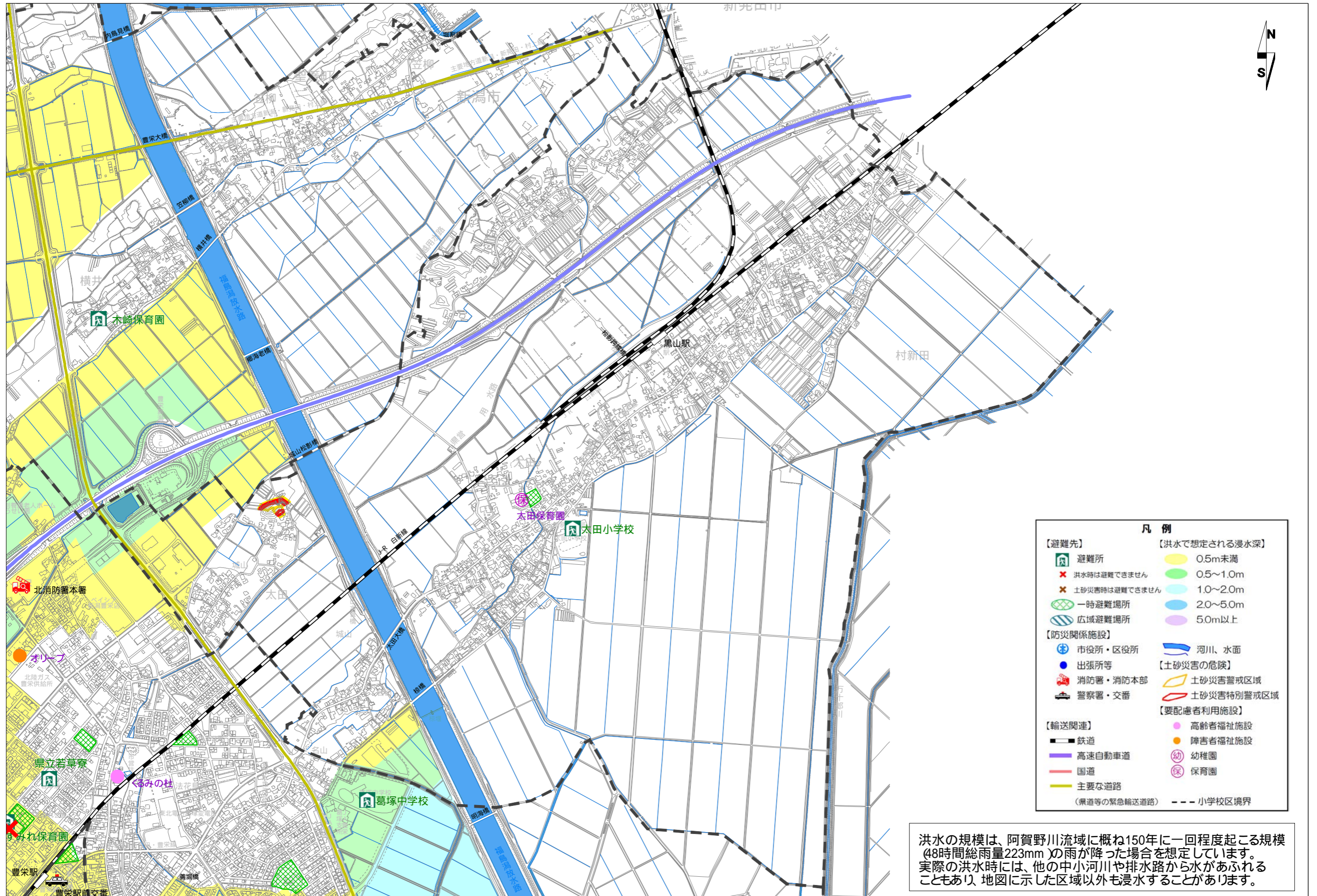
凡例

<p>【避難先】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所 一時避難場所 広域避難場所 津波避難ビル 津波避難場所 <p>【防災関係施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所・区役所 出張所等 消防署・消防本部 警察署・交番 	<p>【輸送関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 高速自動車道 国道 主要な道路 (県道等の緊急輸送道路) <p>【要配慮者利用施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設 障害者福祉施設 幼稚園 保育園
--	---

--- 小学校区境界

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院,平成25年)

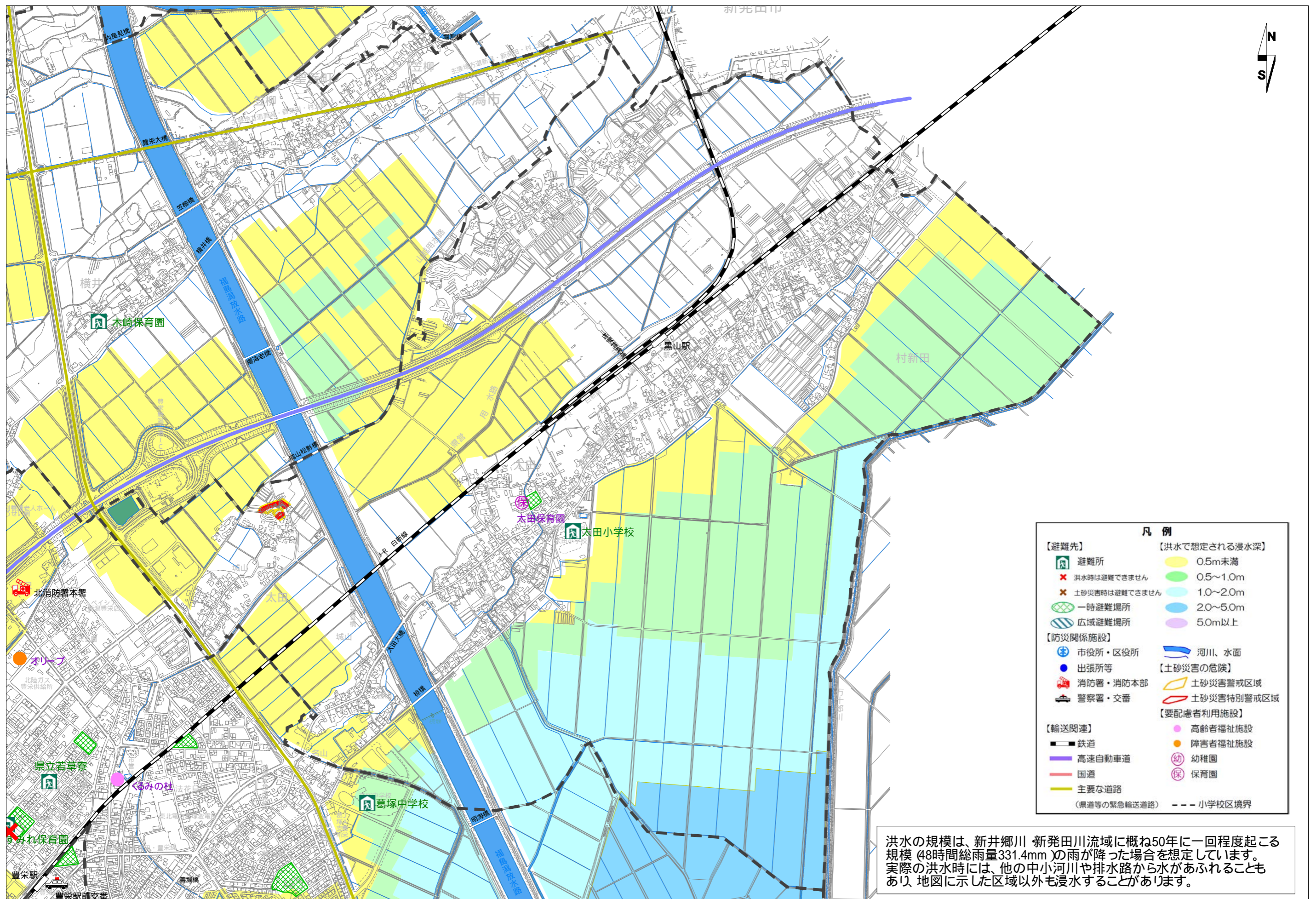




凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	--- 小学校区境界

洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量223mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)



凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	
	--- 小学校区境界

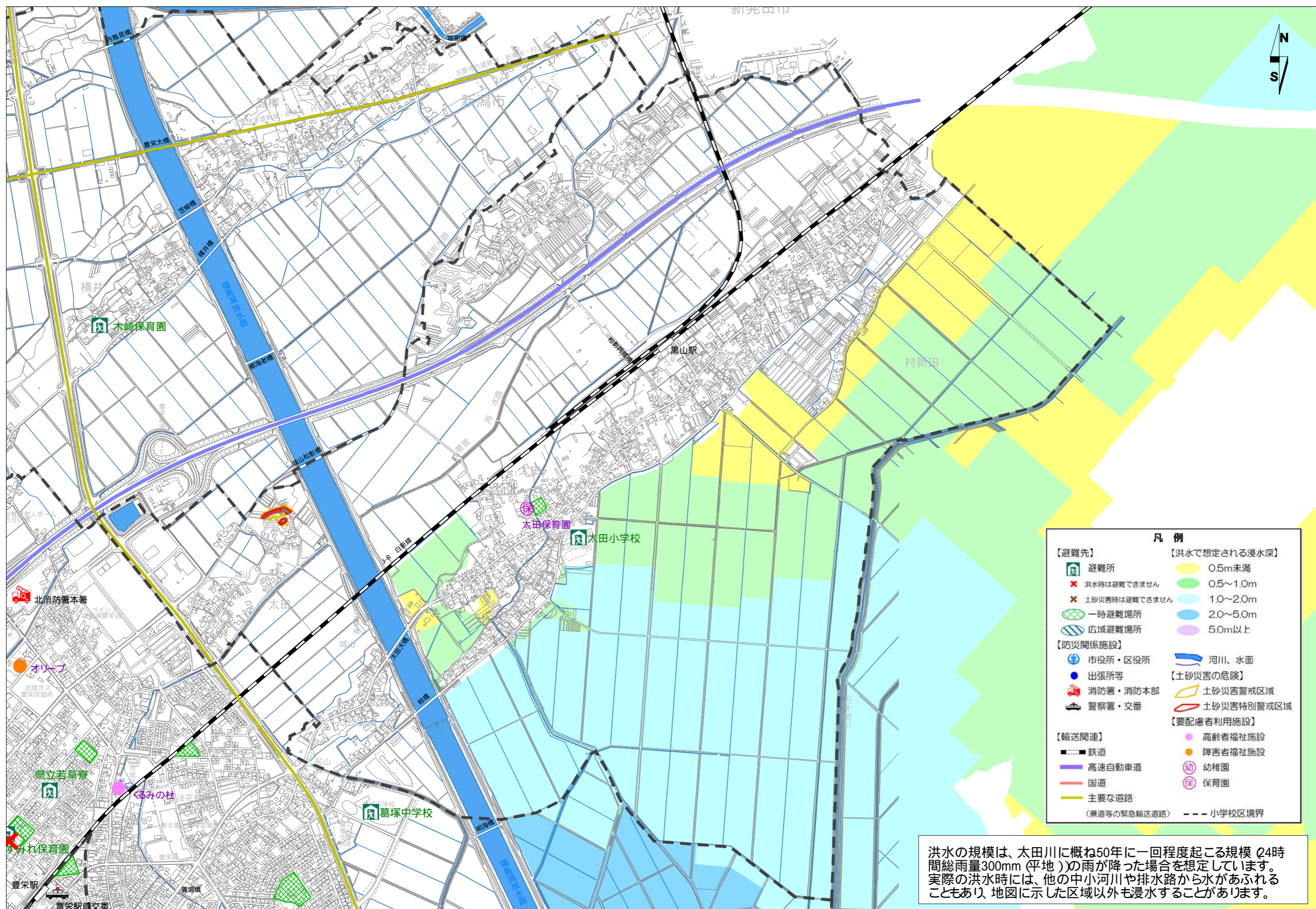
洪水の規模は、新井郷川 新発田川流域に概ね50年に一回程度起こる規模（48時間総雨量331.4mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（太田川）

太田小学校区



凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	
	--- 小学校区境界

洪水の規模は、太田川に概ね50年に一回程度起こる規模（24時間総雨量300mm（平地））の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
太田川浸水想定区域（新潟県，平成21年8月21日）

